

# 30E06-am03S

ピロリ菌に対する抗菌作用を持つ天然成分の研究

○綾部 ゆか<sup>1</sup>, 太田 香織<sup>1</sup>, 湯原 悠太<sup>1</sup>, 岡本 敬の介<sup>1</sup>, 根岸 友恵<sup>1</sup>,  
伊東 秀之<sup>1</sup>, 有元 佐賀恵<sup>1</sup>(<sup>1</sup>岡山大学)

【目的】胃がんは現在、日本における悪性腫瘍による死亡者のうち2位を占めている。一方、ヘリコバクター・ピロリ (*Helicobacter pylori*) は、ヒト胃内に寄生し、慢性胃炎や胃潰瘍の原因となる細菌であり、胃がんのリスクファクターであることも知られている。当研究室では、ヘリコバクター・ピロリ (*Helicobacter pylori*) へ抗菌活性をもつ天然成分をスクリーニング的に見つけることを目標として、天然成分の抗菌活性を評価した。

【方法】天然成分として、ポリフェノール類、タンニン類やその代謝物を検討した。*H. pylori* ATCC43504 を使用して実験した。血液寒天培地上で、37℃、酸素5%、二酸化炭素10%の条件下で72時間培養を行った。その後、培養した *H. pylori* を液体培地(7%馬血清を含む)に懸濁し、96穴プレートの1well中にピロリ菌液(Blankでは7%馬血清を含む液体培地を使用)を190 $\mu$ L、サンプルを10 $\mu$ L添加し、37℃、酸素5%、二酸化炭素10%の条件下で72時間振とうしながら培養を行った。培養後、マイクロリーダーで吸光度を測定して抗菌活性を評価した。

【結果・考察】陽性物質として、抗生物質で抗菌活性を示すことを確認した。天然物質22種について抗菌作用を評価したところ、punicalaginなどいくつかの化合物で抗菌活性があることを見出した。抗生物質耐性ピロリ菌対策に有用な可能性があると考えられる。